令和元年度第２回前橋市公民館運営審議会資料　委員意見まとめ

〇川上委員
・それぞれの公民館で、地域の特性（課題も含めて）に合った事業展開ができている、あるいはそのための努力をしていると感じています。
・公民館での学びの成果を地域に還元していくためには、まずは地域にそのニーズがなければできません。地域が何を必要としているか、それを見極めることが重要だと思います。

〇村島委員
・桂萱公民館は、以前から独自の事業や講座を行っていると聞いていました。実際に青少年体験・チャレンジ活動事業を拝見し、地域の高校生が地域の小学生及び保護者に大道芸を披露し、教えるという夏休みにふさわしい内容で大変良かったです。また、公民館に活気があり公民館が地域の核となっているようにも思えました。中央公民館以外での開催は初めて？とのことでしたが、年に２回あるうちの 1 回はこうして地域の公民館で開催するのも良いのではないでしょうか。大変楽しく興味深く視察させていただきました。ありがとうございました。

〇大井委員
【三世代交流の推進に向けて】
・公民館利用者は高齢化に傾き、若い世代の活用の大切さを実感しました。
・桂萱公民館の高校生との結びつきを生かし、小学生が参加した大道芸体験の催しに感銘しました。こうした若い世代と共に行う催しの広がりを期待したい。
・地域がひとつになって行っている「のびゆくこどものつどい」は各地域とも大盛況だったとのこと。こうした各地域が共働しての行事にヒントを得た催しの立ち上げが望まれる。
【親しまれる公民館へ向けて】
・「公民館を地域の縁側に」という取り組みに関して各公民館の努力が感じられました。とりわけ明るい笑顔で来場者をもてなすという発表が心に残ります。またロビーの活用や交流行事の実施にも工夫が見られ、こうした住民との絆を深める取り組みの更なる推進を期待しております。
【地域への愛情を深めるために】
・「コミュニティデザイン」は地域の歴史と現状を伝える貴重な資料です。
・「学んだ成果を地域に生かす」ために、この内容を深く学び合えば誇りある地域づくりへの共に考えるヒントが浮かぶと思います。

〇中山委員
・自販機についての意見がありましたが、公民館の役割とは違うので、もう少し公民館についての勉強も委員がしてほしいと思いました。
・もっと民主主義的な公民館にふさわしい意見を委員が出してほしいと思いました。館長の意見で団体が継続できなくなるということはないと思うので。

〇田中委員
・公民館に若い人達が集まる事が必要だと思う。若い人達に集まっていただくために子ども達の事を考えてみました。小学生中学生たちの集まる場所が出来たらと思う。児童、生徒を対象とした勉強会を公民館で実施する。この勉強会は退職職員の方や地域の学生さんにお願いしお手伝いをしていただく。その後みんなで一緒に楽しく食事をする、地元の食材を使った食事を提供する。またみんなで楽しく遊ぶ（低学年では昔遊びなど）これを子ども食堂につながればと思う。
・近年自然災害が多く発生している。地域での防災、減災などの訓練や勉強会が必要だと思う。小さい子どもさんの親子から中学生、一般の人、高齢の方も集まり大勢の人達を巻き込み防災訓練や、大雨災害ワークショップの勉強会に参加し楽しみながら体験をする。またのびゆくこどものつどい時に炊き出し訓練を（ハイゼックスの袋を使って）行ったらと思う。子ども達に、知って、覚えて関心を持ってもらう。他の地区でもやっておられる事でしょうが。

〇萩原委員
・前回の視察から、他の地区公民館の様々な取り組みを地域の方々が知ることも必要だと思いました。公民館の職員の方々の情報の共有は実践されているかと思いますが、地域の利用者の方々も、他の公民館の情報を知ることで、改めて地区公民館の在り方を考える機会、そして地域の方の公民館への意識を高める機会になるかと思います。
・地域の高校、大学との継続的な事業は、視察をさせていただき改めて必要性を実感しました。
・公民館の設置場所や駐車場、動線（歩行者）の確保や、施設の中のレイアウト等の改善も利用に際しては重要だと感じました。
・公民館の活用の状況の広報もさらに必要かと思います。

〇小高委員
・県立前橋高校の現役高校生が講師となり、公民館事業に参加することは、研究協議である「地域に還元できる仕組みづくり」に大きく関わっているだろう。
・そもそも、公民館は、講師が生徒に対し、指導するのはもちろんであるが、講師も同時に学習を行う拠点であると私は考えている。そのため、講師と公民館は二人三脚で、課題選定から効果測定までを行うのが良いのではないだろうか。特に、7月視察の際は、講師が現役高校生であった。だからこそ、学習途中の高校生が事業前後で、どのような変化があったかなどを記録し、講師・生徒双方の学習に繋がったかを確認するのが良いと思う。

〇東園委員
・資料を読み、各公民館が「主体的な学びの実現」や「社会教育の拠点」とし様々な企画、工夫と努力をされている事に感銘致しました。
・今回、実際に公民館を訪問できたことは良かったと思います。それぞれの地区の公民館の抱える課題等、今後への展望等をみえたか。
・個人的な事ですが、今夏は孫と公民館主催の教室に多く参加し、講師(学んだ成果を地域に還元されている方、ボランティアの方々)に教えていただき、貴重な体験・思い出作りをすることができました。無償の善意の方々の支えの中で市民が幸福を感じられるまちづくりに感謝です。
・その中心的拠点となる公民館の果す役割は益を大きく、重要になるのではないかと思います。「地域づくりに生かす社会教育の推進」「地域の担い手の育成と活用」等公民館の使命は今後さらに大きいと感じます。

〇牧委員
・配布資料の各公民館の具体的な取り組みを拝見して、地域に対応した様々な事業を計画展開していることがわかりました。今回の桂萱公民館の活動事業のように実際に見学できるとより具体的にイメージできるので、他の公民館でも視察ができると参考になると思いました。
・前橋市の読み聞かせ活動をしているグループでは、戦後70年の時は、市立図書館（各地域の分館も含む）と各公民館で協力して「戦争と平和のおはなし会」を開催しました。準備から多くの時間を費やし、参加者から「よかった」という声があったのにもかかわらず、継続できませんでした。すくすく教室で「親子三代でおはなしを聞こう」夏休みの「怖いおはなし会」など独自に様々な世代の方におはなしを届ける活動を実践している地区もあります。これらを含め、継続発展、定着していけるとよいと思います。

〇野口委員
・公民館が小学生～高校生の子供たちを取り込もうという仕組み作りの取り組みを行っていて、みなさまのご努力を知る事ができました。このような取り組みが若い世代が公民館を利用するきっかけともなっているのではないかと思いました。
・うまくいっている公民館の取り組みの手法を応用していければよいのかなと思いました。
・前回の最後のほうに話題となっていた、長年やっている事業と新規事業の兼ね合いみたいなものは、本当に難しい問題だと思いました。確かに始めるのは簡単だけども、やめるのは難しいと思います。各館によって事情は異なるとは思いますが、そのあたりの基準のようなものをつくることができればよいのかなとも感じました。

〇剣持委員
・各公民館での取り組みは、それぞれ計画実施されているようですが地域の皆さんがどんな事を公民館でやって欲しいのかと言う事がよく分かりません。過去にやって来たからと継続してやっている事は、ないでしょうか？そこで地域の人たちの意見（困っている事）、希望（やって欲しい事）を取ったらどうでしょうか？その結果を基に出来る事に優先順位を付けて計画に盛り込む。内容については専門的な事もあると思いますので、過去のやって来た事業の中で適任な方に担当して頂く。そのために各地域の中にどんな方がどんな能力を持っているか把握する。要望と講師がマッチしない場合は、講師を養成する。その取り纏めをするのは、公民館としても地域の代表者（何も自治会長ではない、興味のない方が担当しても上手く行かない）とチームをつくり地域の活性化を図る等、何かキーとなるものが必要と考える。

〇梅津委員
・桂萱公民館の前高生大道芸クラブの活用や学生向け新生活応援講座・農業体験講座・子育てママの生き生きセミナーなど地域的特性や課題を踏まえた取り組みに前向きの努力を感じ素晴らしいと思った。
・それぞれの公民館の地域の特性や課題を生かした創意工夫のある実践事例や報告を読ませていただき素晴らしいなと思いました。質的温度差や地域差があるように思われましたが、世代間交流の場を日常的に提供できる仕組み作りが課題かなと思います。
・どの公民館も 60 歳以上のシニア世代の利用が多く、まさに生涯学習の拠点になっていると思いました。また、子育て支援に取り組み、地域の人材活用を通して子育て世代をつなぐ役割を果たしていることは大切に継続してほしいと思いました。富士見公民館に子育て講座で行った時も、11 組の親子が参加し保健推進員さんが講座の終わるまで子供たちの世話をしてくださり、母親の皆さんは安心して話を聞いていました。公民館のコーディネート力の成果だと思いました。一つの行事をめぐり人をつなぐ発想がとても大切だと思いました。

・「公民館を地域住民の縁側に」、つまり『社会教育や生涯学習の地域拠点としての公民館』としての認識がとても大切だと思います。クールシェアスポットの取り組みやフリースペースの開放は地域の人や子供を呼び込むのに成功したことと思います。困ったことがあったり、人をつなぐ必要があったりしたときに、まずは公民館に相談してみようという手始めになっていくといいなと思います。
・特に、地域の学校や諸団体や近隣公民館や諸ボランテイアグループ等との連携は必要以上のエネルギーを必要としますので大変だろうと思います。担当者同士の共通理解を深めたり、新たな事業を企画したり、継続したりすることは強い意欲が必要ですし、地域拠点として人・もの・ことを「つなぐ」ということは、事務的なことを超えた人間的なつながりを必要としますので、強い意志がないとできないことかと思われます。
・青少年の参加ということでは、行事を企画することも大切ですが、ボランテイアとして参加してもらい公民館の機能や存在を知ってもらうことが大切かなと思います。県内の大学では、地域の諸行事に社会体験活動の一環として、ボランテイアとして協力する受け入れ態勢ができているところがたくさんあります。5 中地区の地域づくり関連の行事にはボランテイア要請をしていますので数名必ず参加しています。地域の高校でもアクテイブラーニングが取り入れられ、高校生の社会体験等の取り組みも奨励しています。部活動等に視点を置くと協力が得られるように思います。要はお互いの立場や垣根を超えて踏み込む決断が難しいのかもしれません。後期青少年教育機関との結びつきが新しい風を起こす鍵のように思われてなりません。